

これからも「皆様から必要とされる会社」で在り続けるために

加藤産業の軌跡

当社は創業者である加藤彌三二が、1945年に飲料水卸業として創業し、地域の小売様とメーカー様をつなぎ、ともに成長してまいりました。様々な苦難に立ち向かいながら、2代目社長である加藤武雄（現：名誉会長）が、M&Aを積極的に進め、常温・低温・酒類・菓子の各カテゴリーの礎を築き、長きにわたり挑戦を続け、事業を拡大してまいりました。そして、私が3代目社長に就任以降は、グループ経営を推進し、各カテゴリーを安定化させることで連結売上高1兆円を超えることができました。当社グループが次のステージへ挑戦し成長するために、デジタル技術やAIを活用した新たなビジネスモデルの創出や業務の生産性向上・効率化を図る一方で、日本国内の人口減少を見据え海外事業を強化しております。当社は独立した存在感のある全国食品卸売業としての企業規模を確立するとともに、食を扱う企業として「豊かな食生活を提供して人々の幸せを実現する」ために、常にお客様に喜んでいただける価値を提供していきたいと考えております。そのために、我々にとってのお客様は誰なのか、そのお客様に対する価値とは何なのかを定義し、我々の強みを生かしながら、これからもお客様のご要望にお応えし続けてまいります。

変革期の到来

私が入社したのは1994年で、翌年に阪神・淡路大震災が発生し、卸売業としての使命を感じる原点であり、今につながる災害対応の原点にもなりました。当時はバブル崩壊後であり、卸売業の変革期に会社が衰退していくかもしれないという危機感から、物流管理総合システムの導入等、積極的な投資を行いました。そのような状況もあり、やらなければならないことは明確で、社内にあるリソースや他社の成功事例を踏襲することで解決できる、今思えば分かりやすい時代だったのかもしれませんが。一般的に「企業の寿命は30年」と言われますが、今まさに、30年前と似たような変革期を迎えていると感じております。しかし、当時と比べ世の中の変化が速く、社内のリソースには限りがあり、社外の先進事例が少ないなかで、目指すべき姿を描きづらい時代になりました。さらに食生活や生活者の購買行動が多様化しており、リアルとデジタルの垣根がなくなり、小売業の業種・業態を超えた競争が激しくなりました。労働人口の減少や人件費の高騰、原材料費・エネルギー価格の上昇もあり、先行きが見通しづらい状況でもあります。しかし、卸売業は変化対応業であり、失敗を恐れず変革していくことが求められます。今後もお客様が求めているものを理解し、それにお応えできるよう中長期的な投資を進め、我々の機能を充実させてまいります。そして次のステップを見据えて、現状に問題意識を持って新たなことに挑戦し、従業員とともに変革を実現していく所存でございます。

豊かな食生活を守り続ける

我々は事業活動を通じ、収益拡大を進めるとともに、社会課題の解決が会社の成長につながるというCSVの観点を持つことが大切だと考えております。これまでも環境保全活動や社会貢献活動を展開してまいりましたが、さらに活動を広げるため、サステナビリティの基本方針を掲げ、「脱炭素」「フードロス&ウェイスト」「資源循環」「多様な人財の活躍」の4つのマテリアリティ（重要課題）の解決を目指しております。明日の食を守り続けるため、当社グループ全体でサステナビリティ活動を展開し、ステークホルダーの皆様とともに、2047年の創立100周年を見据え、社会性を有する企業として永遠の発展を礎き上げてまいります。

経営信条

1. 思考に基く行動をおこす
2. 目的意識を持つ
3. 新しい常識をつくれ
4. 企業内に無駄をなくせよ
5. 経営感度を高めよう
6. 蓄積の精神

代表取締役社長執行役員

加藤和弥

